

平成30年 決算特別委員会 開催状況

(企業局所管)

開催年月日 平成30年11月8日
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員
 答弁者 公営企業管理者、企業局長、企業局次長、
 発電課長、発電課施設整備担当課長
 工業用水道課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 工業用水道事業会計について (一) 工業用水道事業の経営状況について (菊地委員) 昨年度の経営状況について、当期純利益、未処理欠損金、一般会計からの繰り入れはどれだけあったのか、また、一般会計からの繰り入れは、これまでの総額でどれだけになったのかお伺いいたします。</p> <p>(二) 欠損金の低減について (菊地委員) さらにですね、多額の未処理欠損金が残っていますが、経営健全化計画では、苫小牧工水は資本金の減資の制度の活用を検討するとしています。これは過去に一般会計から繰入を受けた出資金などにより欠損金を埋めるものであり、これも結局は税金による穴埋めになるのではないのでしょうか。企業局として欠損金の低減に向けどのように取り組んでいくのか伺います。</p> <p>(三) 一般会計繰入金の見通しについて (菊地委員) 企業局が策定した経営健全化計画ですね、一般会計からの繰入金の計画額が記載されていますが、計画は2019年度までとなっています。一般会計繰入金について、計画終了後の見通しについて伺います。</p>	<p>(工業用水道課長) 工業用水道事業の経営状況についてでございますが、まず、平成29年度については、収入として契約水量の増加などがあった一方で、支出では減価償却費が増加したことなどにより、経常利益は前年度とほぼ同額であったものの、前年度、約8千万円ございました特別利益が今年度は発生しなかったことなどから、純利益は約8千万円減少の約2億円となったところでございます。 また、未処理欠損金につきましては、前年度と比べ約24億4千万円減少の約86億4千万円となりましたほか、一般会計からの繰り入れについては、今年度は約4億6千万円であり、これまでの総額は、一部返済した額を除きまして、約342億7千万円となっているところでございます。</p> <p>(企業局次長) 未処理欠損金の低減についてであります。公営企業の経営の自由度を高める等の観点から、平成24年に地方公営企業法が改正され、地方公営企業においても資本金の額の減少、いわゆる「減資」の制度を活用することが可能となったところでございます。 このため企業局としては、苫小牧工水の未処理欠損金を可能な限り低減するため、減資の制度の活用についても視野に入れつつ、まずは、需要開拓や経費節減など経営効率化の取組を着実に進め、純利益の確保に努めてまいります。</p> <p>(工業用水道課長) 一般会計繰入金についてであります。現在の経営健全化計画におきましては、一般会計からの繰り入れとして、未稼働資産等整理債の償還に対する補助金のほか、石狩工水においては、企業債の償還費のうち、地下水からの水源転換分に対する補助金や、水源でありますダム建設に係る利水者負担金に対する出資金、さらには営業及び建設改良に係る資金不足額に対する長期借入金を見込んでいるところでございます。 このうち、未稼働資産に係る補助金につきましては、平成28年度、水源転換に係る補助金につきましては、平成29年度にそれぞれの企業債の償還の完了に伴い終了する予定となっておりますほか、出資金については、平成35年度と見込まれるダム建設事業の完了までの措置となっているところでございます。 また、石狩工水の長期借入金につきましては、契約水量の増や、経費節減の取組を着実に継続することにより、可能な限り営業運転資金の不足額の圧縮を図ってまいりますほか、建設改良資金の不足額についても、引き続き、施設の計画的かつ効率的な整備に努め、低減を図っていく考えでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 長期借入金について (菊地委員) つぎに、一般会計からの長期借入金についてですが、昨年度末の残高、苫小牧工水、石狩工水、それぞれの内容、返済の見通しについてお伺います。</p> <p>(五) 石狩工水について (菊地委員) 石狩工水についてですが、これまで一度も長期借入金を返済していないで、増える一方です。石狩工水の経営改善についてですが、契約水量や受水企業は増えているのでしょうか。今後、どう改善していくおつもりなのかお伺いいたします。</p> <p>(六) 室蘭工水について (菊地委員) 室蘭工水について、先ほどから議論になっており、答弁を聞いていますのでお伺いしませんが、一つ指摘させていただきたいというふうに思うんです。 大口ユーザーであるJXTGエネルギー株式会社が本来に来年3月に製造中止になるとのことでは、室蘭工水の経営悪化に直結するものと考えます。そういう意味からいっても答弁からは危機感が感じられないというふうに思うんですね。 同じように工業用水をJXTGエネルギー株式会社に供給している室蘭市では、5,000万円の減収になるというふうにして大きな問題意識になっています。 企業局としても道民への説明がしっかりできるような取り組みを今後していただきたいと思ひますし、大企業としてのJXTGエネルギー株式会社にはですね、社会的な責任があるわけですから、契約した責任水量を守るってことを強く求めていっていただきたいというふうにこのことを指摘しておきます。</p>	<p>(工業用水道課長) 長期借入金についてでございますが、一般会計からの繰り入れのうち、返済義務のあります長期借入金の残高は、平成29年度末で約44億5千万円となっておりますところでございます。その内訳としましては、統合前の苫東工水において、平成9年度から12年度にかけて、建設改良資金の不足額に充てるために借り入れ、未稼働資産等整理の際に苫小牧工水に引き継いだものが約6億円、石狩工水におきまして、営業運転資金の不足額に充てるため借り入れたものが約30億6千万円、建設改良資金の不足額に充てるため借り入れたものが約7億9千万円となっておりますところでございます。企業局といたしましては、引き続き、需要の拡大や支出の抑制などにより経営改善に努め、一般会計からの借入の抑制と借入金の返済に向けまして、純利益の計上を図られますよう、努めてまいりたいと考えております。</p> <p>(企業局次長) 石狩工水についてであります。平成29年度末現在の石狩工水の受水企業は29社、契約水量は2,952トンとなっており、現在の経営健全化計画がスタートする直前の平成26年度末と比較しますと受水企業数は、2社減少したものの、契約水量では、発電施設における新規契約などにより76トン増加したところであり、今年度以降、発電施設の建設などにより、4,780トンの増加を見込んでいるところであります。 企業局としては、石狩工水の経営改善に向け、収入においては、庁内の企業誘致関係部局と連携して需要開拓に努めるとともに、支出においては、運営管理委託の見直しなど、可能な限りの経費節減に努め、一般会計からの長期借入金の低減に努めていく考えでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(七) 今後の取組について (菊地委員)</p> <p>最後になりますけども、比較的経営が安定していた室蘭工水でも厳しくなる、そういうふうに予想されます。いまの経済情勢では豊富で良質な工業用水があればそれが呼び水になって、企業が誘致できるという状況なのかというふうに考えますが、今後の工水事業のあり方、取組みについて、どのように取り組んでいくのか最後にお伺いいたします。</p> <p>公共的なそういう役割をしっかりと果たせるよう、頑張ってもらえばというふうに思います。</p>	<p>(公営企業管理者)</p> <p>今後の取組についてであります。経済のグローバル化や産業構造の変化、水のリサイクル技術の向上などによる需要の減少など、工業用水を取り巻く状況は近年大きく変化しております。道営工業用水道事業におきましても厳しい経営が続いていくという風に考えております。</p> <p>そのような中にございまして、本道の豊富で良質、かつ低廉な工業用水は、地域を支えるインフラとして不可欠なものであり、近年、本道において企業立地の動きがある新エネルギーなどの発電や食関連産業の分野におきましても、工業用水道の存在が企業誘致の大きなインセンティブとなるものと考えております。</p> <p>このため、私といたしましては、工業用水の安定供給と経営基盤の強化に向け、施設の老朽更新や耐震化を早急かつ計画的に行うとともに、支出削減などの経営効率化の取組を継続しながら、関係部局とも連携して需要開拓に努めるなど、道内産業を支えるインフラとしての工業用水道の役割を将来にわたってしっかりと果たすことができますよう、取り組んでまいります。</p>